

# 広報 いずも

第53号 平成19年(2007)5月24日発行

平成18年7月豪雨災害からもうすぐ1年

## 忘れない 水害の怖さ

昨年7月の集中豪雨は、尊い人命を奪ったほか、住宅や道路、農地などに大きなつめ跡を残し、復旧作業は今なお続いている状況です。今年も雨の季節が近づきました。災害の恐ろしさを忘れないで、家庭や職場、地域などで、改めて防災について考えましょう。2～3ページでは、防災情報をお知らせします。



### 昨年7月19日を振り返って

当時の朝山コミュニティセンター長

渡部 勝博 さん(見々町)に聞きました



朝山コミュニティセンターの玄関先には、災害時の水位などを示したプレートがあります。

「まさか、ここまで水が…。避難所の朝山コミュニティセンターでも浸水が始まり、深夜3時ごろから朝山小学校2階への移動を開始しました。コミュニティセンターの駐車場や小学校の校庭は、腹の高さまで水位が上がり、探り足でゆっくり進んでいきました。もし停電していたら真っ暗で精神的な不安が増していったと思います。あの災害で、警報が出れば心の準備をしておくこと、また町内や隣近所での助け合いの大切さを学びました。



朝山小学校へ移動する先発隊。最後のグループはこれより50cm水位が上がった中を移動しました。



### 目次

防災対策	1～3
臨時市議会報告	4～5
投票所が変わります	6
お知らせコーナー	13～15